



# わたしの道

〈神奈川県〉

横濱 よこはま 華子 はなこ 20歳

看護学生2年生。私は、うつ状態になってしまった。看護師になりたい気持ちはずっと変わらず、憧れを持ち続けているはずなのに……。自分でも分からなかった。元々、人の気持ちにのまれやすく、実習はつらかった。認知症の方の「帰りたい」という思いを聞いては苦しくなった。そして、何もできない自分に嫌気が差した。

ご飯が食べられなくなり、ぼーっとしてしまふことが増えた。このままではいけないと思った。そして、意を決して精神科を受診した。いろんな人に話を聞いてもらい、私はずっと泣いていた。医師は私にこう言った。

「あなたのような人は、こういう世界、これからもずっとつらいと思うよ。自分の未来について、もう一度考え直

してみてもいいんじゃないかな」。私はさらに泣いた。

採血のために、看護師さんに呼ばれた。処置室に行くと、看護師さんは「看護学生さんだっけね。診察室から聞こえちゃった。つらいよね。私の娘も、私に憧れて看護学校入ったんよ。けどね、『つらい』って、辞めちゃったんだ。今は楽しそうにしているよ。人生、いろんな道があるんだからさ。あなたのご両親の一番の願いは、あなたが笑顔で過ごせることだと思うよ」と私に笑い掛け、頭をぽんぽんとなでてくれた。その優しい笑顔と声掛けがすうっと心に染み込んだ。頭をなでてもらって、安心した。

学校の先生も、とても心配してくれ「あなたのがんばりはちゃんと見ているよ。1人で抱え込んで、泣ける場所が

なかったんだよね。今日からは、私の前でも泣けるね」と言ってくれた。

私は、苦しい時に、温かい言葉や態度で見守ってくれる人の存在の大きさを思い知った。そして、自分も人に「こういう看護がしたい」と思った。

いろんなことから立ち止まってしまふことや、つらくて、つらくて、泣いてしまうこともあるけれど、その分、いろんな人に救ってもらった。私は、この経験から、自分のやりたいことが見えた。少しでも、つらくて苦しんでいる人を笑顔にできますように。